

サービス提供事業所の 利用者主体のアセスメント

社会福祉法人愛泉会 天花
渡邊 則幸

1

この講義のねらい

【ねらい】

サービス提供を希望する利用者や家族理解を深めるための手法と視点を習得する。

【内容】

サービス提供における利用者を主体としたアセスメントの考え方やその手法についての講義

2

印象的な言葉

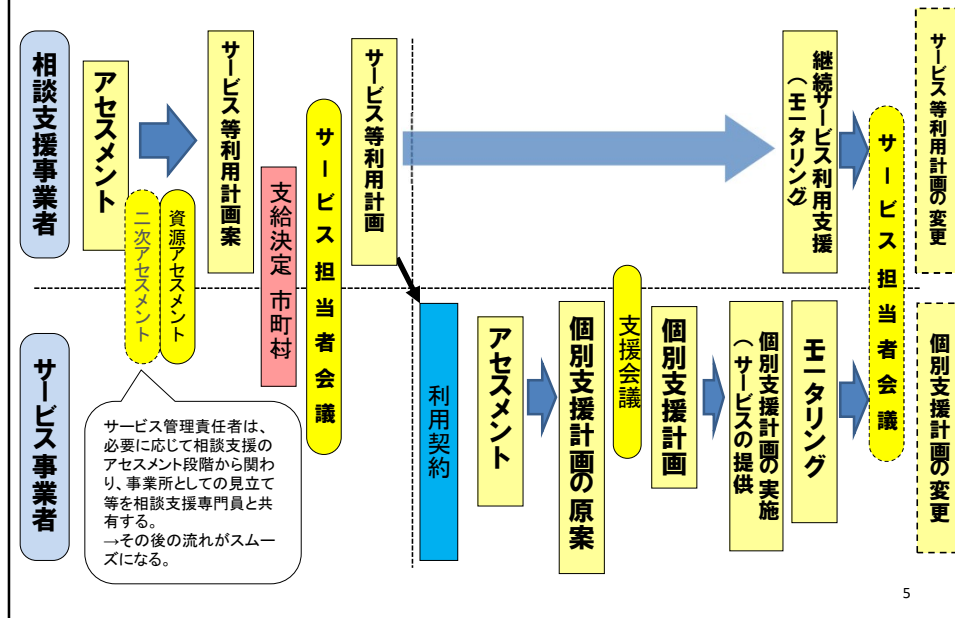
海図・気象予報図をもたない
闇夜の航海

3

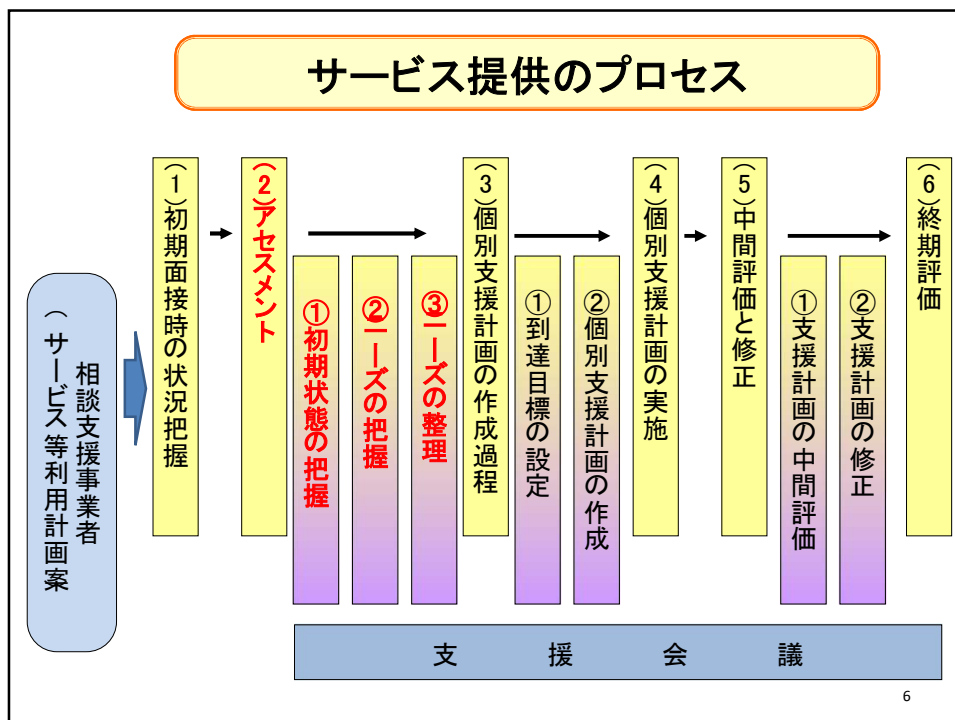
1、サービス提供のプロセス

4

指定特定相談支援事業者（計画作成担当）と障害福祉サービス事業者の関係



サービス提供のプロセス



支援提供のプロセス 例示

7

●コンプライアンス(法令等の遵守)について

- ・法律、通知・通達、契約、ガイドライン、指針等
- ・内部規定、理念、専門職倫理、道德規範等

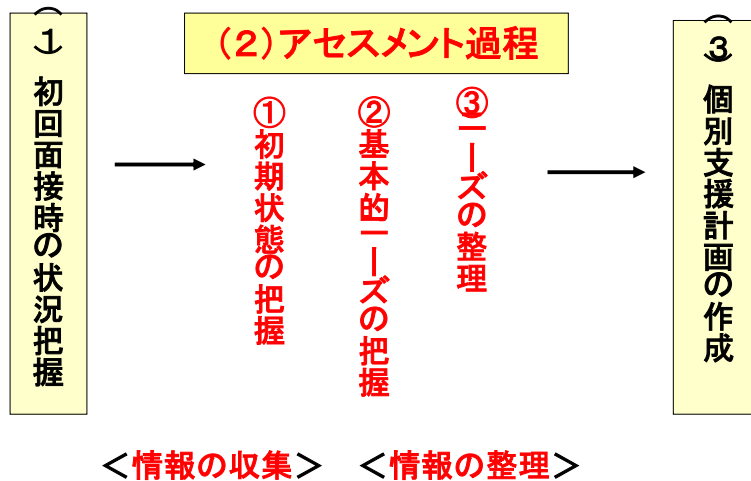
⇒福祉サービス提供者の社会的責任を全うし利用者の権利擁護を担い、
「サービスの質の向上と利用者満足度の向上を目指す」ために、最低限行
わなければならないこと。

* 簡単に言えば、法律を守ることが最低のサービス保障であるという感覚。
法律を守らなければ、最低のサービスはしていないという感覚でお願いし
ます。

例) 車の運転で法定速度があり超えれば違反で捕まる 等
捕まらなければ良いという考え方ではないはずです

8

アセスメントのプロセス

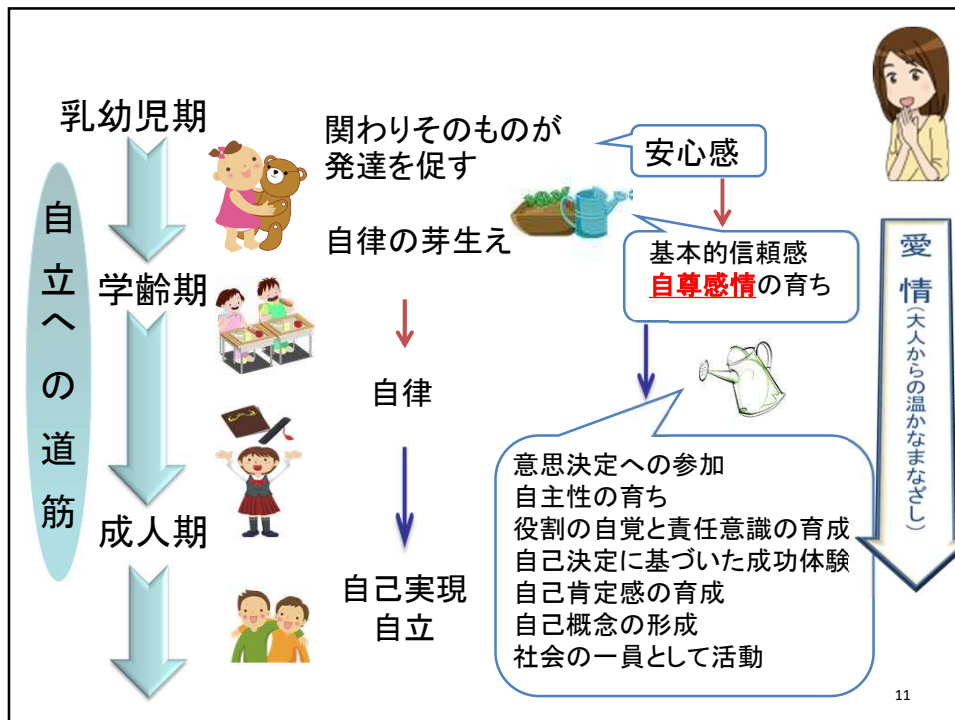


9

2、障がい児・者のライフステージと各時期の中心的な課題の例

胎生期		胎生期における母親の不安への支援
新生児期(主として2か月まで)		先天性障害の告知とフォロー、治療・訓練の方針提示、家族への支援
乳児期(主として0～3歳未満)		健康診査後のフォロー、家庭における子育て、機能訓練、豊かな感覚的な遊びの体験、親子療育の開始、家族の障害受容のための支援
幼児期	前期(主として3歳～5歳未満)	発達段階に応じた遊びを通した達成感の経験、集団での療育、地域の集団への参加の可能性、子どもに応じた複数の発達アセスメント
	後期(主として5歳～就学まで)	就学に向けての支援、豊かな遊びを通した対人関係の構築と生活体験の広がり
学童期		能力に応じた臨機応変かつ適切な教育の提供、将来に向けて必要な生活体験、性教育、意思伝達・表現及び選択する機会、進学に向けた支援、卒業後に向けた支援、就労支援
青年期	前期(主として18～20歳)	地域・就労定着支援、本人のストレングスを活かした本格的な相談支援の開始
	後期(主として20歳代)	余暇・休日の過ごし方、適切な就労先の見直し、一人暮らしへの支援、本格的な意思決定支援の開始及び自己決定された暮らしの提供
成人期	前期(主として30～40歳代)	地域のイベントへの参加、地域での居場所づくり、趣味を増やすための支援
	中期(主として50歳代～65歳未満)	体力と本人の意欲に応じた生活の見直し、高齢期に向けた準備、保護者が後期高齢の年齢になっていることへの対応
	後期(主として65歳以上)	介護との連携、自己決定された暮らしが継続されているかのチェック

10



3、アセスメントとは

アセスメントは...

- 支援の方向性・計画を作るための**根拠**として重要である
- 利用者が支援を受けつつ、**なりたい自分の姿**になることために...
- 支援・療育現場においては、利用者に関わりを通じ、**アセスメントは常に連続・継続**している

インテーク、アセスメントは何が違うの？

4、アセスメントする場所

- ・ 事業所で面談又は居宅へ訪問
- ・ 利用者、ご家族等に面談
- ・ 利用者、ご家族との信頼関係(ラポール)を構築
- ・ 日常生活場面、活動場面、療育場面でのアセスメント

13

5、アセスメントのポイント

- ・ 個別支援計画を作成するために集める
 - ・ 利用者やその周辺の情報を取りまとめる
 - ・ 利用者本人のニーズなのか、ご家族のニーズなのか
- ⇒ ニーズの整理表、ストレングス、エンパワメント
リフレーミング
- ⇒ 課題の整理の例

14

ニーズの整理表 例示

15

● ストレングス(ご本人の強み)

本人と環境の両方にある強さのこと

- * それを中心にアプローチしていこうとする考え ⇒ ストレングスモデル
- * ダメージモデル(できないできないばかりのニーズ)から脱却

● エンパワメント(ご本人の可能性)

本来もつ力を発揮して生きること

- * 利用者が自信のパワーに気づき、十分にその力を発揮し、さらに高められる支援へ

● リフレーミング(違う枠組みで見ること)

「視点を変える → 枠組みを変える → 意味が変わる」

16

アセスメントの重要性

(山形県障がい者相談支援従事者研修、初任者研修より)

★アセスメントからすべてが始まる★

＜相談支援専門員の気付きが重要！＞

○ニーズを把握する

→問題点を解決するためのカギを導き出すこと

○支援の方向性、目標を把握すること

○自立支援の可能性を探ること

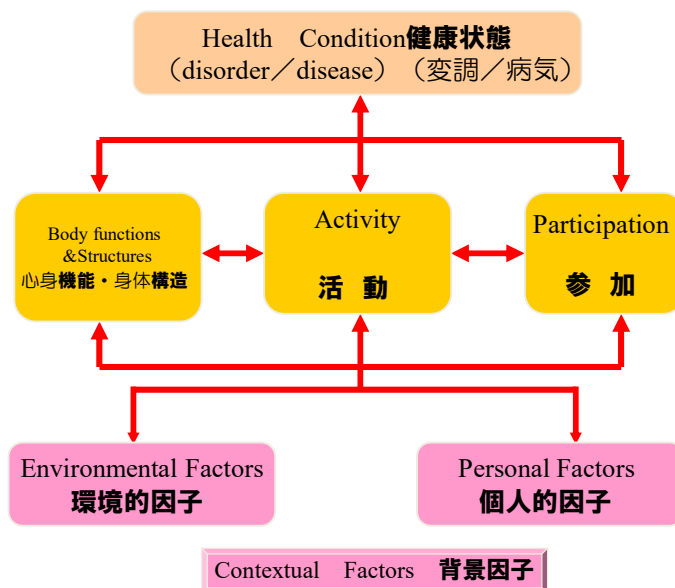
→支援が必要な量を適切に把握すること

→本人の「強さ」(ストレングス)に着目すること

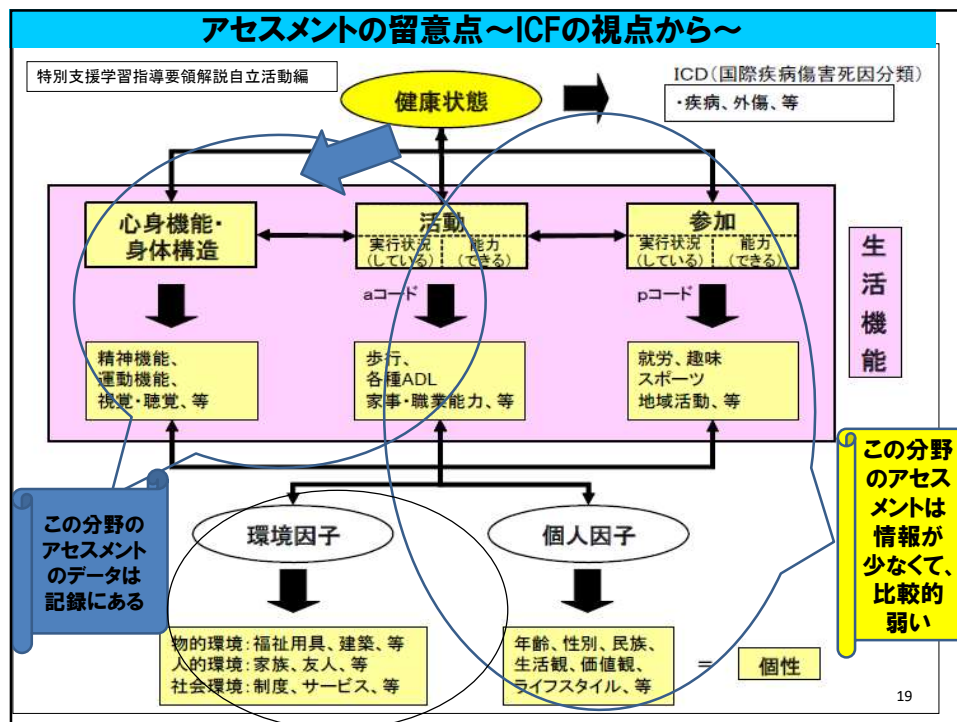
→本人がおかれている「環境」に着目すること

17

6. ICF国際障害分類の障害構造



18



・福祉は、アセスメントがなくてもできてしまう。
医療の場合は…

・「経験重視の支援」(感覚的なもの)

⇒ 「エビデンス(根拠)に基づいたもの」

・「医学モデル」 ⇒ 「社会モデル」

では、なんで虐待が悪いのか

7、福祉サービス利用者の権利

1、利用者の生命、生活を守る義務がある

⇒ 障がいがある方々が、安全に生活できる権利を守る

2、自己決定を保障するための支援をする

⇒ 適切な自己決定や意思表出のための支援

* 障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン
(厚生労働省、2017年3月)

21

**「Nothing about us without us」
私たちぬきに私たちのことを決めないで**

* 障害者の権利に関する条約(障害者権利条約) スローガン

22

8、アセスメントの様式やシート

「事業所によって違うこと」

各事業所の理念・方針・事業所強みや特色等

- 障がい者・高齢者・障がい者就労支援アセスメントシート 等
- 児童用(児童発達支援、放課後等デイ)アセスメントシート
発達支援、家族支援 等
- 強度行動障がい者や発達障がい者等は、障がい特性に合わせた項目

などなど……

* 私がつくったアセスメントの例

23

アセスメント 例示

24

9、アセスメントシートはどんな時に使うのか？

- ① 利用者支援、子どもの療育場面
- ② 個別支援計画の作成
- ③ 施設・事業所、関係機関内での情報提供・共有・定着・更新
- ④ 観察力等を含めたスキルアップ

25

10、アセスメントの聞き取りでは

①事前情報を収集する

アセスメントをより適切に行うためには、事前情報を収集することが大切

②当事者、ご家族と「一緒に考えていく」という意識

⇒信頼関係をつくるもの

③具体的に聞く

アセスメントでは、利用者の生活状況をできるだけ具体的に把握する
悪い例 良い例

④理由を考えながら

例えば・・・

様々な角度からアセスメントすることが大切

26

10、アセスメントの聞き取りでは

⑤記録の仕方・方法

事実と客観的視点が混在しないようにする

記録がない = 支援をしていない

支援員、介護職員の大切な業務に「書く、記録する」が入ります。よって、業務は、大きく二つになると思います。

①支援・介護業務 ② 書く、記録する

27

①文章が記録になる瞬間

②記録の要件

真正性 原本性 見読性 保存性

③記録のルール

* 村岡裕氏 リスクマネジャー養成講座より

28

11、アセスメントシートの代表的な項目

ICFと照らし合わせて...

*「基本情報」「健康の状況」等

(1) 基本的な生活習慣

(2) 社会的な生活・活動

①生活スキル ②社会スキル ③社会参加

(3) コミュニケーション・対人関係 …… 等

29

12、アセスメントシートの取り扱いの注意点は？

- ・ アセスメントシートは、個人情報の集まり
- ・ 自分がアセスメントされた時に置き換えてみると...

30

13、アセスメント力を高めるために

- ① **小さな変化に気づく観察力、支援・療育の見立て力を高める**
日常生活、活動、療育場面 等
- ② **利用者の力を伸ばす支援、利用者の個々に着目**
- ③ **利用者のニーズに応じて次の生活を目指す**
「その人のライフステージに合わせた」「その人の取り巻く環境に合わせた」
- ④ **社会参加の視点**
- ⑤ **相談支援専門員、地域の関係機関との連携**
ライフステージに応じた一貫した支援 ⇒ 地域連携
- ⑥ **エンパワメント、ストレングス、リフレーミングの視点**

31

14、利用者主体と家族支援について

- ① **本人主体、心情理解の視点**
- ② **家族を含めたトータル的な支援**
・ご本人の取り巻く環境でニーズに沿った必要な支援を行う

32

①ー1 本人主体

例えば)

「利用者さんの気持ちを考えて」「ご家族の想いは」「働きやすい職場環境を」
「その言葉、利用者さんだったらどのように感じている」「自分の身になって考えて」
「この利用者さん、子どもはコミュニケーションが課題だね」「コミュニケーションの支援をしないといけない」等

対人援助では、コミュニケーションが大切になります。でも、そのコミュニケーションは、学校で私たちは習いましたか？

まず、しなければいけないことは！

コミュニケーション支援、介護 ⇒ 障がい特性を知る

例えば・・・

33

①ー1 本人主体

相手の気持ちを考える、自分の立場に置き換えて考える ⇒ 他者目線

他者目線とは・・・

他者目線は、一人ひとり個別に合わせて対応になります。

支援では、「個別化」「自分の価値観に当てはめない」等、言われませんか？

こんな視点もあります。

「自分がされて嫌なことはしない」と同様に・・・

34

①ー1 本人主体

相手の気持ち(他者目線)を考えるためには、「想像力」が大切になります。
「空気を読む」ということではありません。

例えば、「空気を読む」と言ったら・・・

利用者一人ひとりに合わせた支援 ⇒ 個別化

人の数だけ生活を想像しないといけない。一人一人求めているものが、自分とは絶対的に違う。 ⇒ 「想像力」

35

①ー1 本人主体

想像力が欠落してしまうと、自分の価値観を押しつけてしまうような感じになってしまうと思います。

例えば・・・

こんなことはないですか？

例えば・・・

イメージは・・・

支援は、想像力が大切になります

想像する ⇒ 相手に興味をもつ ⇒ 相手を知る

36

①ー2 心情理解の視点

(山形県強度行動障がい支援者養成研修(基礎研修)より)

利用者、子どもたちは…

自閉症や強度行動障がいと呼ばれ… 近づけば構えられ…
対応は腫れ物に触るようにされ…困ってのSOS行動はすべて問題行動…叱責…
望んだ施設・事業所でないのに大人数でのストレス生活や活動…
家族から離れる寂しさ… 大変な想いをしている
自分の事を分かってもらえないことからの人間不信

スタッフは…

「どうしたの?」「何か嫌なことあった?」

「何、困ってるの?」「～だったからかなあ?」

⇒ ご本人はやりたくてやっているわけではない

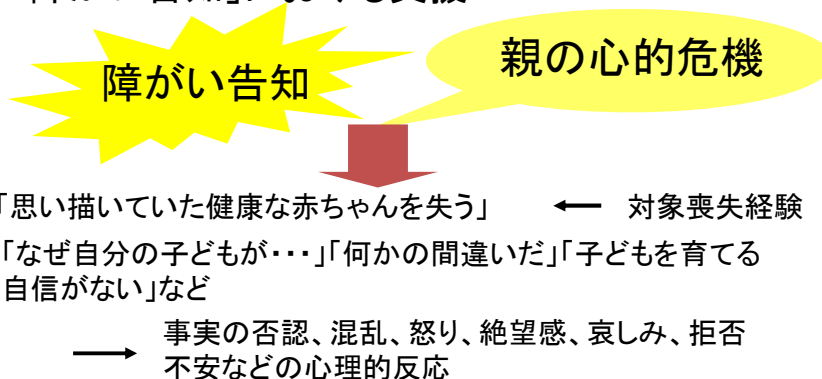
⇒ 第一に理解しようとする気持ちで関わる

⇒ 前後の状況、環境等から原因追求を行う

37

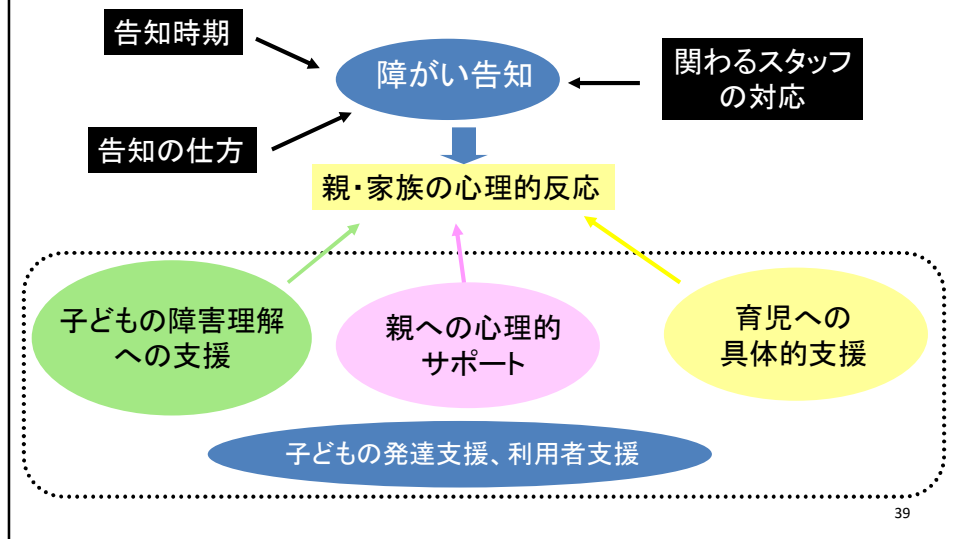
②家族支援～障がい受容を支える視点～

「障がい告知」における支援



38

「障がい受容」を支えるということ



*** 家族支援は、ほとんどの事業所で「している」と答えると思います。**

家族支援の土台は、「障がい受容」の視点です。「お母さんが障がいをもってしまった子を産んでしまった」という、暗い部分にどれくらい寄りそえるか。大人の支援では、障がい受容されているご家族の方が多いと思います。でも、家族支援をする時の土台は「障がい受容」。それを踏まえて、ご家族とのやりとりを大切にしてください。

大人になると「親亡き後の生活」が出てきます。でも土台は、「障がい受容」。

家族支援というと母親支援だけではなく、親だけではなく、きょうだい（兄弟姉妹のこと）、祖父母のことも配慮も出てきます。

- 例) ご家族のケース
- 例) 家族支援で言ったスタッフの言葉
- 例) ご家族から言われた言葉
- 例) 連絡帳

*** そのような想いをもったご家族と接する時に大切なのは家族支援になります。**

- ・親だけではなく、きょうだい（病気や障がいを持った方の兄弟姉妹のことを言う）、祖父母 等
 ちなみに...4月10日は「きょうだいの日（シブリングデー）」

15、まとめ

- 『個別支援計画』って、その人の人生を導いているもの。
- 個別支援計画作成とは・・・
- 「計画は、宝物さがし」
- * 個別支援計画を作成するためには、アセスメントがポイント!

41

参考資料

- ・国サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者指導養成研修会
テキスト引用
- ・独立行政法人福祉医療機構(WAM NET) 介護支援専門員関連情報より
- ・知的障害者のためのアセスメントと個別支援計画の手引き 引用
(財団法人日本知的障害者福祉協会)

42